

吉島 栄蔵（よしじま・えいぞう）

1、プロフィール

歌人。「アララギ」に入会。「東北文学」「玄人」に参加。「地上」に入会以降は、「地上」「美籠」「国原」に歌を発表。北奥羽短歌協会長として短歌振興に寄与。

<生没>

1913(大正2)年 10月30日～1996(平成8)年4月26日

<代表作>

歌集『稲の花』

随想集『釣鐘草』

<青森との関わり>

八戸市出身。教職にあった。歌誌「国原」同人で県歌人懇話会副会長。北奥羽短歌協会長等の要職にあった。

2、作家解説

大正2年10月30日、八戸市に生まれる。旧制八戸中学校卒業後、小学校本科正教員(検定)、小中野小学校代用教員、湊小学校訓導を務める。昭和14年8月応召。復員後、八戸市農業共済組合長、八戸市連合PTA会長等を歴任し、八戸市文化賞、藍寿褒賞等を受賞。歌誌「国原」同人で、八戸市文化協会監事、青森県歌人懇話会副会長、北奥羽短歌協会長等の要職にあった。

短歌を始めたのは中学4年であった。木村靄村との出会いが機縁となり、「アララギ」に入会。その後稲垣浩を知り、稲垣を通して窪田空穂の警咳に接することができた。昭和8年～11年頃には、沙和宋一の「東北文学」・木村靄村や宇山博明等の「玄人」に参加したり、芸林の奈良兵亮等と「陸奥」を発行したりした。対馬完治主宰の「地上」に入会した昭和10年以降は「地上」「美籠」「国原」に歌を発表。八戸文化協会・デーリー東北新聞社の共催により北奥羽短歌協会が毎年行

なっている「北奥羽短歌大会」の開催では幹事役をつとめた。平成8年4月26日、不慮の事故で永眠。享年82。

「歌は誰にでも解かるように、誠実に詠い上げること」が指標で、歌集『稲の花』（昭和51年10月30日・国原社）と随想集『釣鐘草』（平成5年3月25日）を上梓している。

3、資料紹介

○『稲の花』

図書

1976(昭和51)年10月30日

195 mm × 135 mm

昭和7年から昭和48年までの歌を取捨して一冊としたものである。昭和7年から昭和14年の「牡丹の花」には短歌227首と長歌2首、昭和21年から昭和48年の「稲の花」には短歌370首と長歌2首を収める。「序」を稲垣浩（「国原」主宰）が執筆。